

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 14 日現在

機関番号：37105

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730284

研究課題名（和文）近世長崎貿易の再検討—国際分業の観点から見た 18 世紀の日本とアジア・世界経済—

研究課題名（英文）Reconsideration of the Nagasaki Trade in the Early Modern Period: The International Division of Labour and the Japan Economy in the Eighteenth Century from Asian and World Perspective

研究代表者

島田 竜登（SHIMADA RYUTO）

西南学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：80435106

研究成果の概要（和文）：

本研究は、近世期の長崎貿易について再検討を行うものである。この際、国際分業の視点を重視して、日本経済を、アジア経済、さらには世界経済のなかに位置づけることを企図した。とくに、本研究では、18 世紀を中心とした時期に生じたアジア経済や世界経済の変化と日本経済の変容の関係性を、長崎貿易というレンズを通じて考察することにつとめた。

研究成果の概要（英文）：

This research project aimed to reexamine the Nagasaki trade during the early modern period. Through an analysis of the changes in the international division of labour, the research project attempted to locate the Japanese economy in the Asian and world economy. In particular, the project made efforts to discover economic links between the changes in Japan and those in Asia as well as the world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：オランダ東インド会社、国際分業、アジア間貿易、長崎、日本史、東洋史

1. 研究開始当初の背景

(1) 18 世紀における日本を含むアジア経済の動向に関して、近年、国際的に研究の関心動向が高まっている。特に、近世アジア経済史の研究は Andre Gunder Frank 等がその必要性を喚起し、Kenneth Pomeranz は、18 世紀東アジア経済について西洋経済との相対的把握の重要性を主張している。一方、近世日本経済については、速水融や斎藤修による優れた研究があるが、これらの研究は当該期の日本

を鎖国ないしは閉鎖経済を前提としたものであり、近世日本の国際貿易はあえて捨象した研究となっているきらいがある。

(2) もっとも、川勝平太は 18 世紀日本の国産代替化や経済的「脱亜」を論じている。しかしながら、十分な実証を研究に裏付けられたものではない。したがって、こうした研究動向を背景に、近世日本経済史研究をその国際貿易との関連で、実証的な重要データにもとづく研究が必要とされているといえよう。

(3) 本研究代表者は、2006年度から2008年度にかけて、科学研究費補助金若手研究(B)の枠組みで、「18世紀におけるアジアの国際分業とオランダ東インド会社のアジア間貿易」と題する研究を行ってきた。この研究は、オランダ東インド会社のアジア間貿易について、代表年の貿易構造を明らかにしたものである。この研究を前提とし、本研究は日本を事例として、より詳細な研究を進める。

2. 研究の目的

(1) 近世の長崎貿易や日本経済をグローバルかつローカルに実証的に分析する。例えば、日本の貿易史研究は、日本と中国や朝鮮といった局地的貿易の解明にとどまっており、広範囲なアジア内での国際分業下に日本経済を位置づけてきた訳ではない。一方、本研究は、日本からインド・ペルシアにいたる近世アジア間貿易の構造を明らかにできると共に、それぞれのローカルな後背地経済の土地生産構造が日本経済といかなる関係にあったかを考察可能とする。海外で生じた経済的变化が日本経済のいかなる影響を与えたかといった問題を考察するのである。

(2) また、本研究は、史料としては、主として、従来あまり利用されてこなかったオランダ東インド会社文書を駆使する。オランダ東インド会社の貿易記録は近世アジア経済の全体像の把握のために多くの情報を提供しうるにもかかわらず、上述のごとき目的による経済史的研究はほぼ皆無とあってよい状況にあり、本研究が一種のパイロット・スタディーの役割を果たすことになる。

3. 研究の方法

(1) 前述の通り、本研究は、方法論的には、オランダ東インド会社の会計帳簿等を用い、収集された数量データから分析仮説を導き、商業決議録や貿易事情報告等の文章史料からその仮説の是非を問う方法を採用した。時期については日本を含むアジアや世界経済に、一見すると目立たぬが、内的には大きな変容の見られたと考えられる18世紀を中心にして研究を実施した。

(2) 具体的には、次の3つの段階を経て考察を行った。

① 第一のステップとして、本研究は、オランダ東インド会社文書を用いて、日本貿易に関して数量的分析を行った。オランダによる貿易については、オランダ国立公文書館所蔵の「日本商館文書(Archief van het Nederlands Factorij in Japan)」にある毎年の商館仕訳帳(Journaal)を利用した。唐船貿易については、永積洋子『唐船輸出入品数量一覧』(創文社、1987年)をベースにし、これに出島商館長日記(「日本商館文書」中の毎年のDagregisters)ならびに日本側の記録(『長崎実録大成』『長

崎実記年代録』等)から補足し、オランダ船、中国船双方の主要商品の輸出入データを集積した(第1年度)。

② 続いて、生産状況や消費状況等の商業情報の分析を実施した。第一に、オランダ国立公文書館が所蔵する「オランダ東インド会社文書(Archief van de Verenigde Oostindische Compagnie)」に含まれる「日本発信年次報告(missiven van Japan)」を利用し、オランダの取り扱った日本市場向け商品の販売状況等の文書データの集積をはかった。なお、情報の収集に当たっては、オランダの貿易活動だけではなく、いわゆる唐船貿易に関する情報の収集にも努めた。第二には、バタヴィアでの商業情報についてである。日本向け商品の産地で情報や日本製製品のアジア各地での販売状況などの情報は、バタヴィアでひとたび集積されたのち、毎年、「オランダ東インド会社文書」中の「一般政務報告(generaal missive)」で本国に伝えられていた。このオランダ東インド会社文書中の「一般政務報告」を利用して、上記に関する商業情報を収集した(第2年度)。

③ 最終的には、以上の研究結果をもとに、アジア経済、世界経済との関連から、近世長崎貿易や日本経済の変化について、総合的な分析を行なった。具体的には、オランダの東インド総督であったVan Imhoffの日本貿易論(1744年)、イギリスがバタヴィアを含むジャワを占領した時代の副長官Rafflesの日本貿易論(1811年)、さらには、オランダ返還後の蘭領時代にバタヴィアから長崎に派遣された日本商館長Meijlanの日本貿易論(1833年)を検討した。これら3名の日本貿易論の論者は、日本貿易に強い関心を持っていた。長期的視野の下に、それまでの日本貿易をいかに認識し、改革すべきかを論じたのである。これを、第2年度までの研究で明らかになった日本貿易の実態と比較を行い、本研究の総括とした。また、彼らの日本貿易に関する論説は、現在の研究にも強い影響を与えているため、こうした論説の再検討は、近世長崎貿易の再考察を意図する本研究の適切なる最終分析ともなった(第3年度)。

4. 研究成果

(1) 本研究は、近世において長崎さらには日本の重要輸出入品であった商品の毎年輸出入品に関するデータを集計した。また、長崎ならびにバタヴィア、オランダ本社の記録を利用することで、以上の商品についての情報(日本輸入商品については海外生産地の情報や日本の市況情報、日本輸出商品については日本の生産情報や海外の市況情報)が明らかになった。結果として、国際分業に基づく、長期の18世紀のアジア経済や世界経済の動向の中に日本経済の変化を国際分業論に基

づいて実証的に検討した。

(2) 以上の研究は、成果として、現在までのところ、学術雑誌論文 5 件、学術書掲載論文 4 件、学会・研究会での口頭報告 24 件等をえた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

- (1) 島田竜登, 「18 世紀におけるオランダ東インド会社の錫貿易に関する数量的考察」, 『西南学院大学経済学論集』第 44 巻第 2・3 合併号, 2010 年, 199-223 頁, 査読無。
- (2) 島田竜登, 「近世アジアの交易世界—オランダ東インド会社文書からの接近—」, 『歴史と地理』634, 2010 年, 1-14 頁, 査読無。
- (3) 島田竜登, 「歴史学はすでに「国境」をこえつつある—グローバル・ヒストリーと近代史研究のための覚書—」, 『パブリック・ヒストリー』8, 2011 年, 1-13 頁, 査読無。
- (4) Ryuto Shimada, “Dutch Commercial Networks in Asia in Transition toward the Age of the Pax-Britannica, 1740-1830”, *The East Asian Journal of British History*, 1, 2011, pp. 29-40, 査読有。
- (5) 島田竜登, 「近世長崎貿易の世界史的考察: 長崎との貿易ルートを中心として—」『文明研究・九州』5, 2011 年, 11-20 頁, 査読有。

〔学会発表〕(計 24 件)

- (1) 島田竜登, 「東インド会社と近代世界システム—オランダ東インド会社の事例から—」, 九州歴史科学研究会 2009 年度 4 月例会, 西南学院大学, 2009 年 4 月 25 日。
- (2) 島田竜登, 「オランダ東インド会社のアジア間貿易」, 国際商業史研究会, 東京大学, 2009 年 7 月 12 日。
- (3) Ryuto Shimada, “South-East Asian Tin Production and its Export Trade in the Eighteenth Century”, XVth World Economic History Congress, Utrecht University, The Netherlands, 3 August 2009.
- (4) Ryuto Shimada, “Invisible Links: Maritime Trade between Japan and India in the Early Modern Period”, XVth World Economic History Congress, Utrecht University, The Netherlands, 4 August 2009.
- (5) Ryuto Shimada, “Comments on the Paper by Professor H.V. Bowen: Re-imagining, Reconstructing, and Re-estimating British Trade with Asia, c. 1750-1830”, Tenth Global History Workshop in Osaka: Eurasian History and Global History, Osaka University, Japan, 14 September 2009.
- (6) 島田竜登, 「パネル・ディスカッション」19

世紀のアジア・ネットワーク—金融網と通商網をとおして—」へのコメント」第 78 回社会経済史学会全国大会, 東洋大学, 2009 年 9 月 27 日。

- (7) Ryuto Shimada, “Porcelain Token and Chinese Society in Siam during the Nineteenth Century”, International Workshop: Monies for Ordinary People: neither Precious nor National, The University of Tokyo, Japan, 15 October 2009.
- (8) 島田竜登, 「オランダ東インド会社とアジア・ネットワーク—比較研究を念頭にした近世バタヴィア都市史の試み—」, 第 3 回全球都市全史研究会, 東京大学, 2009 年 11 月 6 日。
- (9) Ryuto Shimada, “Economic Links with Ayutthaya: A Multilateral Trading Model between Japan, China and Siam in the Early Modern Period”, The Second International Conference: Canton and Nagasaki Compared, The University of Tokyo, Japan, 1 December 2009.
- (10) Ryuto Shimada, “Dutch Commercial Networks in Asia in Transition, 1740-1830”, The 41st Meeting of the Japanese Association for the Study of British Imperial and Commonwealth History, Osaka University, Japan, 12 December 2009.
- (11) Ryuto Shimada, “The International Trading System of the Late Ayutthaya Kingdom: An Economic Analysis of Exchange of Gifts in the Dutch Trade”, International Workshop: Institutions and Dynamics of the Pre-Modern Global Trade Asia and North America in the 18th to 19th Centuries, Kyoto University, Japan, 10 March 2010.
- (12) Ryuto Shimada, “Asian Sugar in the Global Context: A Survey of the Sugar Trade by the Dutch East India Company during the Eighteenth Century”, The 21st Conference of the International Association of Historians of Asia, River View Hotel, Singapore, 25 June 2010.
- (13) 島田竜登, 「近世アジアとオランダ東インド会社」, 大阪歴史教育研究会大会, 大阪大学, 2010 年 8 月 9 日。
- (14) Ryuto Shimada, “Japanese Went Abroad: A Survey of Japanese Migration History, 1500-1950”, International Conference: Migration and Mobility in a Global Historical Perspective, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, 26 August 2010.
- (15) Ryuto Shimada, “Dutch Commercial Networks in Asia in Transition, 1740-1830”, The 4th Korean-Japanese Conference of British History, Kumamoto University, Japan, 14 November 2010.
- (16) Ryuto Shimada, “The Economics of Gift

Exchange at Ayutthaya: Reconsidering the Siam Trade by the Dutch East India Company in the Early Modern Period, International Workshop: Local History from the Outside: Using Foreign Sources in Asian History, The University of Tokyo, Japan, 11 December 2010.

(17) 島田竜登, 「オランダ東インド会社の「奴隷」制度について」, 社会経済史学会九州部会・経営史学会西日本部会, 福岡大学, 2011年1月22日。

(18) Ryuto Shimada, “Reconsideration of the Dutch-Japan Trade in the First Half of the Nineteenth Century”, Joint Conference of the Association for Asian Studies & International Convention of Asia Scholars, Hawai'i Convention Center, The United States of America, 2 April 2011.

(19) Ryuto Shimada, “Comments on the Symposium: Port States in Southeast Asia”, 56th International Conference of Eastern Studies, The Toho Gakkai (The Institute of Eastern Culture), Japan Education Center, Japan, 20 May 2011.

(20) 島田竜登, 「国際シンポジウム「海域アジアの港市国家」へのコメント」, 立教大学アジア地域研究所主催国際シンポジウム, 立教大学, 2011年5月21日。

(21) Ryuto Shimada, “The Slavery of the Dutch East India Company: Batavia and Nagasaki”, Special session 1: Migration History around the Indian Ocean World since the Seventeenth Century, The 24th Annual Congress of the Japanese Association for South Asian Studies, Osaka University, Japan, 10 October 2011.

(22) 島田竜登, 「近世海域アジア貿易と日本銀—オランダ東インド会社を中心に—」, 広島史学研究会大会シンポジウム, 広島大学, 2011年10月29日。

(23) Ryuto Shimada, “Smuggling and the Formation of the Modern State in the Nineteenth Century: From the Japanese Case”, International Conference: Non-state Actors in the Transition Period in Monsoon Asia, 1760-1840, Academia Sinica, Taiwan, 28 November 2011.

(24) Ryuto Shimada, “Porcelain Token in Thailand: The Chinese Society and the Thai Global and Local Conditions in the Long Nineteenth Century”, International Workshop: De-Teleologising History of Money and Its Theory (II), The University of Tokyo, Japan, 15 February 2012.

〔図書〕(計4件)

(1) Ryuto Shimada, “Siamese Trade in Agricultural Products with Japan and China in the Eighteenth Century”, in: A.J.H. Latham and Heita Kawakatsu (eds.) *Intra-Asian Trade and Industrialization: Essays in Memory of Yasukichi*

Yasuba (London and New York: Routledge, 2009) pp. 52-75.

(2) 島田竜登, 「オランダ東インド会社とアジア・ネットワーク—比較研究を念頭にした近世バタヴィア都市史の試み—」, 深見奈緒子監修『生態系から見た都市とそのネットワーク—海域世界をめぐる—』第3回全球都市全史研究会報告書(総合地球環境学研究所・メガ都市プロジェクト, 2010年), 43-51頁。

(3) Ryuto Shimada, “Siamese Products in the Japanese Market during the Seventeenth and Eighteenth Centuries”, in: Yoko Nagazumi (ed.) *Large and Broad: The Dutch Impact on Early Modern Asia: In honor of Prof. Dr. Leonard Blussé*, Toyo Bunko Research Library (TBRL) No. 13 (Tokyo: The Toyo Bunko, 2010) pp. 147-165.

(4) 島田竜登, 「世界のなかの日本銅」, 荒野泰典, 石井正敏, 村井章介編『近世世界の成熟』日本の対外関係6(吉川弘文館, 2010年) 305-319頁。

〔その他〕

書評・ワーキングペーパー等

(1) 島田竜登, 「最後の好機活用を望む—エンコンパス・プログラム—」, 『日蘭学会通信』130号, 2009年, 1-2頁。

(2) 島田竜登, 「書評 山本紀夫著『ジャガイモのきた道』」, 『比較文明』25, 2009年, 243-246頁。

(3) 島田竜登, 「書評 籠谷直人・脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク—長期の19世紀—』」, 『アジア・アフリカ地域研究』9(2), 2010年, 265-269頁。

(4) Ryuto Shimada, “Dutch Commercial Networks in Asia in Transition, 1740-1830”, Tomotaka Kawamura (ed.) *The British Empire and Asia in the Long Eighteenth Century* (Global History and Maritime Asia Working Paper Series No. 17, Graduate School of Letters, Osaka University), 2010, pp. 29-40.

(5) 島田竜登, 「書評 石田千尋著『日蘭貿易の構造と展開』」, 『日本歴史』747, 2010年, 119-121頁。

(6) 島田竜登, 「研究の現場から—オランダ東インド会社と近世植民都市バタヴィア—」『比較文明学会会報』56, 2012年, 6頁。

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/assets/files/teacher/ShimadaRyuto.pdf>

(現在の所属機関における研究業績紹介等のページ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島田 竜登 (SHIMADA RYUTO)

西南学院大学・経済学部・准教授
研究者番号：80435106

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし